

(西暦) 2017年 1月 15日

肺癌の治療のため当院に入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者 所属 外科学(呼吸器) 職名 教授
氏名 浅村 尚生
実務責任者 所属 外科学(呼吸器) 職名 准教授
氏名 大塚 崇
連絡先電話番号 03-5363-3806

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、大塚崇（慶應義塾大学医学部呼吸器外科：03-5363-3806）までご連絡をお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2017年 3月 1日より 2019年 12月 31日までの間に、呼吸器外科にて肺癌の治療のため入院し、手術を受けた方

2 研究課題名

肺切除手術で取り扱う肺血管の組織学的特性に関する検討

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部外科学(呼吸器)・慶應義塾大学病院呼吸器外科

4 本研究の意義、目的、方法

肺癌の手術で取り扱う肺の血管は、体の中のほかの部分の同じくらいの太さの血管と比較すると、とても脆弱です。本研究は、呼吸器外科の手術で切除された肺に付着している血管の一部分を採取し、病理標本を作製します。作成した標本を用いて、肺血管壁の組織学的構造を顕微鏡下に評価し、肺血管壁が脆弱である理由を考察します。特に、手術執刀医が操作した部分を重点的に観察し、手術操作と肺血管壁構造の変化の関連を明らかにします。また、血管壁の状態と、肺癌の状態や他の併存疾患との関連性も検討します。得られた結果を用いて、肺血管の特性に即した適切な手術操作法の確立に役立てます。

5 協力をお願いする内容

呼吸器外科で通常行っている手術によって切除された肺から血管の一部分を採取し、顕微鏡的な評価を行います。ただし通常の病理診断の過程で血管断端を評価している場合は、その標本を代用することが可能です。肺血管壁の組織構造を、肺癌の状態、CTやPETなどの画像所見、診療録中の併存疾患、肺機能、心電図などの生理機能検査と対比させて検討を行います。

本研究のために手術で切除する範囲が変わるということは一切なく、患者さんの治療方針に関わる事柄に影響が及ぼされることは全くありません。病変から離れた部分の肺血管のみを用いるため、本研究によって診断の精度に変化が生じることもありません。手術前・後の検査やフォローアップの方針にも全く影響しません。

6 本研究の実施期間

西暦 2017 年 3 月 1 日 ~ 2020 年 12 月 31 日 (予定)

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報(住所、電話番号など)は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ(匿名化データ)として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報(連結情報)は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

慶應義塾大学医学部呼吸器外科

TEL: 03-5363-3806 FAX: 03-5363-3499

本研究担当医師: 大塚 崇

以上